



2025 WBF Championship “Senri-Series”

千里シリーズ2025

東西両雄 対決！！

白木建太郎（レギュラーシーズン優勝）
VS
杉原陽一（シーズン2位で選出）

2025年WBF千里シリーズは10月12日、関大前フタバボウルで開催された。

レギュラーシーズンを代表して登場するのは白木建太郎選手。

関東軍総帥にして、レビュラーシーズンでは総合優勝、さらに5冠すべて独占と、まさに王者と呼ぶにふさわしい白木建太郎選手。千里シリーズ出場は今回で14回目となり、松本誠司選手を抜き、最多出場である。

低调の関西勢に活を入れ、幕府の威光を知らしめるようと、わざわざ下向しての参戦である。

対するは、こちらも千里シリーズ12回目となる杉原陽一選手。過去8勝3敗と圧倒的な勝負強さを誇る関西勢の希望の星である。まさに東西両雄といえる二人。直接対決は意外にも過去[2010年](#)の一度のみ。この時は白木選手が3勝1敗で杉原選手を下したが…はたして今回は？

【構成：fuchinkan】

●予選ラウンド

杉原選手 競り合いを制しファイナル進出！

まずはレギュラーシーズン制覇の白木建太郎選手のファイナルラウンドの対戦相手を決める予選ラウンドである。

杉原陽一選手（シーズン2位）、ジョー・タカミ選手（第7戦1着）、馬場毅選手（ワイルドカード）の3名がエントリーし、2ゲーム制（ハンデ込み最高点勝負）の試合が行われた。

杉原選手はストライク・2つのスペアと安定した立ち上がりの後、4フレで3・7の超絶スプリットもカバー。その後も2つのスプリットによるオープンがあつたものの手堅くまとめて、競技点161で安定の立ち上がり。

しかし第1ゲームでトップに立ったのはジョー選手であった。4つのスペアとストライクを効率的に配置し、競技点174。暫定1着を確保した。

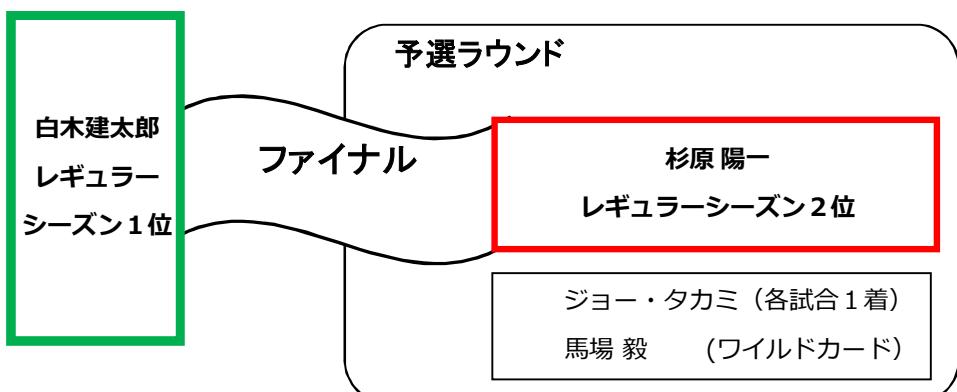
第2ゲームでは、馬場選手が、ダブルを含む5ストライクを決め、ジョー選手を猛追。最終的に1ピン差まで迫ったが、スペアが0と安定感に欠けた。

杉原選手は中盤に連続オープンを出してしまい、脱落しかけたが、後半3フレでストライクを4つだし、徳儀状態からの電車道！最終フレームでジョー選手を抜き、1着を決めた。

予選ラウンド結果

選手名	第1ゲーム	第2ゲーム	ハンデ	競技点	結果
杉原選手	162	180	-1	179	選出
ジョー選手	147	139	27	174	
馬場選手	125	158	15	173	

※ 杉原選手がファイナルステージ進出



◆ファイナルラウンド第1戦◆

両者堅調に得点を重ねるも杉原選手が1勝！

注目の第1ゲーム、両者とも2連続スペアでスタート。第3フレーム（以下3フレ）で杉原選手がスプリットに対して、白木選手はストライク。両者のハンデ差16が一気に縮まった。4フレはともにスペア、この時点で両者の差は3点。しかし5フレで今度は白木選手がスプリット、杉原選手がストライク。その後3連続で両者ともスペアを記録、ほぼハンデ差のまま終盤へ。9フレは杉原選手がスペアでつなげたのに対し、白木選手は痛恨のオープン。10フレを前に約30点差となり、勝負あつた。

10フレで白木選手は待望のダブルを出したものの焼け石に水となった。

杉原選手は3フレのスプリットに慌てること無く、堅実な試合運びで緒戦を獲った。

白木建太郎 (シーズン優勝)	9 /	8 /	*	9 /	s8 1	8 /	7 /	9 /	8 1	* s6	-17
	18	38	58	76	85	102	121	139	148	174	157
ハンデ込み 得点差⇒	↓17	↓14	↓3	↓5	↓16	↓6	↓18	↓17	↓17	↓28	↓21 1勝
杉原陽一 (シーズン2位)	8 /	9 /	s7 2	9 /	*	9 /	9 /	8 /	8 /	* 8 1	-1
	19	36	45	65	85	104	122	140	160	179	178
											HDCP 競技点

第1ゲームは、ストライク数が合計5個と派手さはないものの、一方でスペア合計12、オープンフレームは合計で4（うち2はスプリット）と、東西両雄による堅実な試合運びだったと言える。

◆ファイナルラウンド第2戦◆

白木選手、ターキーを含めフルマーク 200Up で1勝！

両者ともレーンコンディションを完全に把握したのか、第2ゲームは完璧で隙の無い展開となった。

スコアをご覧いただきたい、なんと8フレまで全てマークされている（残ピン無し）。とくに白木選手は

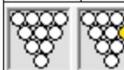
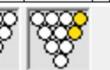
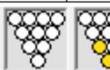
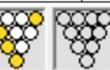
3連続スペアの後にターキー、そして4連続スペアと、まったく付け入る隙を与えない。

杉原選手もストライクスタートの後、4連続スペア、そしてターキー。こちらも盤石である。

勝負を分けたのは8フレ。白木選手がスペアでつないでいる中、杉原選手は7フレまでターキーでスコ

アの上乗せが続いていて、さらにストライクが出るようだと、このゲームも手中に収める展開となるところ…結果はこのゲーム初のオープン。白木選手が杉原選手を2ピン上回り、このシリーズはじめてハンデで沈められた水面下から顔を現した。

1 0フレは両者スペアを記録し、2ピン差のまま最終投球へ。ここで白木選手がストライクを決め、大2戦を獲った。

        												
白木建太郎 (シーズン優勝)	8 / 19	9 / 38	9 / 58	*	*	*	9 / 137	8 / 155	9 / 174	9 / 193	*	-17 196
ハンデ込み 得点差⇒	117	114	110	12	111	6	11	18	18	12	16	HDCP 競技点
杉原陽一 (シーズン2位)	*	8 / 20	6 / 36	6 / 52	8 / 70	*	*	*	7 2	9 / 6	1勝	-1 190
	       											

白木選手の素点213点は千里シリーズ史上11番目のハイスコアであった。

なお、両者の素点合計点402は、ここまで千里シリーズ171ゲームの中で2番目となるハイスコアであり、このゲームのレベルの高さがわかる。ちなみに合計1位は2002年の白木選手＆松本誠選手の437点である。

◆ファイナルラウンド第3戦◆

技能とパワーの応酬を制したのは杉原選手！

第2ゲームを上回る精緻なコントロールとストライクの応酬となった第3戦。

これまたスコアをご覧いただきたい。スプリットが4回出ているが、そのうち2回をカバー。そしてそれ以外のフレームは全てマークである。

杉原選手は2フレのスプリットによるオープンがあった以外は抜群のコントロールとピンアクションで中盤までに5ストライクを決め、大量得点でリードする。第2ゲームから好調を継続している白木選手もダブル発進、そしてスプリットカバー、終盤にはターキーと完全に近い試合運びなのだが、いかんせん杉原選手が上記のように絶好調なので、ハンデ差を縮めることができない。それでも6フレで30ピン開いた差を後半のターキーによって9フレで9ピン差まで詰め寄った。10フレ第2投でストライクが取れれば逆転もあったが、残念ながら浅く入ったボールは全てのピンをなぎ倒せず、この試合は杉原選手に軍配が上がり、優勝に王手をかけた。

SENRI SERIES 2025

WBF Championship

	WBF Championship											
	SENRI SERIES 2025											
白木建太郎 (シーズン優勝)	*	*	s7 /	s7 1	*	8 /	9 /	*	*	* 7 /		-17
	27	47	64	72	92	111	131	161	188	208		191
ハンデ込み 得点差⇒	18	13		112	122 6	130	130	117	19	16	2勝	HDCP 競技点
杉原陽一 (シーズン2位)	*	s6 3	*	8 /	*	*	*	s7 /	7 /	9 /s7		-1
	19	28	48	68	98	125	145	162	181	198		197



白木選手は素点 208 を出しながらもこのゲームを落とした。200UP ながらの敗戦は2006年・松本誠選手以来、2度目の椿事。

両者の素点合計点は403点。第2戦の402点を上回り、千里シリーズ第2位となるハイスクアをさらに更新した。改めて、このゲーム・シリーズのレベルの高さがわかる。

◆ファイナルラウンド第4戦◆

こつこっドカン！杉原選手パワーでねじ伏せる！

第4ゲーム、200UP でゲームを落としたショックか、白木選手はオープンスタート。その後ダブルで取り戻すが、4フレでまたもオープン、このゲームは最後まで波に乗れなかった。

一方の杉原選手、第3ゲーム7フレ以降ストライクが出ない。スペアでつなぐガマン強さを披露した。特に4フレから7フレまで4連続9ピン（しかも難しい10ピン残りが3回）、これを全て回収したのは圧巻であった。

そしてパワーゲージが満ちたかのように、8フレからは怒濤のストライクラッシュ。この日最高となる4連続ストライクを出し、素点211点、勝負を決した。

	SENRI SERIES 2025											
	WBF Championship											
白木建太郎 (シーズン優勝)	s6 3	*	*	9 -	9 /	*	9 -	9 /	8 1	9 -		-17
	9	38	57	66	86	105	114	132	141	150		133
ハンデ込み 得点差⇒	125	115	15	115	114 6	114	125	137	158	177	3勝	HDCP 競技点
杉原陽一 (シーズン2位)	7 /	8 /	9 -	9 /	9 /	9 /	9 /	*	*	* *s8		-1
	18	37	46	65	84	103	123	153	183	211		210



尻上がりに得点を高めていった杉原選手の素点平均は 194.8。これは千里シリーズ歴代2位となる高記録である。

両者の素点平均 190.6 は千里シリーズ最高点、これまでの記録を 8.4 点も上回って更新した。

データから見る 2025千里シリーズ

素点合計平均ランキング			選手名
順位	年度	素点平均	
1	2025	190.6	白木建太郎 & 杉原陽一
2	1999	181.6	杉原陽一 & 松本誠司
3	2020	178.8	田中宏典 & 松本誠司
4	2002	176.8	白木建太郎 & 松本誠司
5	2021	171.9	白木建太郎 & 城戸秀行
6	2013	170.4	馬場毅 & 杉原陽一
7	2018	169.9	白木建太郎 & 田中宏典
8	2024	169.3	田中宏典 & 白木建太郎
9	1994	168.8	松本誠司 & 島 和男
10	1993	168.8	松本誠司 & 田中寿美子

各年度ごとの、両選手の素点平均の合計である。

本シリーズが一位。両選手のレベルの高さを示す資料である。

素点平均ランキング			選手名
順位	年度	シリーズ 素点平均	
1	2023	201.3	杉原陽一
2	2025	194.8	杉原陽一
3	1999	190.3	松本誠司
4	2006	188.4	松本誠司
4	2002	188.0	白木建太郎
6	2004	187.0	白木建太郎
7	2025	186.3	白木建太郎
8	2013	185.4	杉原陽一
8	2000	185.3	白木建太郎
10	2019	182.8	白木建太郎

各年度ごとの、出場選手の素点平均である。

本シリーズ出場の2名ともがランクインしている。



杉原選手

レギュラーシーズンでは終盤に白木選手に差し切られてしまいましたし、千里シリーズでも過去にいちど煮え湯を飲まされていましたが、今シーズンのアベレージとハンデ差を考慮すると、ファーストステージを勝ち上がったらなんとか勝負になるのではないかと思っていました。とはいえた相手は白木選手ですからビッグスコアが出ればこちらは太刀打ちできません。なんとかミスを出さないように自分のボウリングに集中することを意識していました。最後はホームとアウェイの差か、運がすこしこちらに向いたということだと思います。千里シリーズ最多勝利とのことで大変光栄ですが、来期はあらためてシーズン制覇を目指します。

白木選手

調子は決して悪くなかった。200UPも出たし、フルマークも取れた。
——しかし、白星わずか一つでは「完敗」と言わざるを得ない。悔しいが、今回は杉原選手の心・技・体、そして勝負師としての勘が、すべてにおいて自分を上回っていたと思う。
振り返れば、シーズン優勝から出場した千里シリーズは、2005年以降なんと「全敗」だ。来季こそは、そのジンクスを破る『完全勝利』を目指したい。

千里シリーズ過去の戦績

1989	松本誠司	4(○○○●○)	1	松本昌士
1990	奥山満夫	4(●●●○○○○)	3	下永義久
1991	松本誠司	4(○○●○○)	1	島裕二
※1	1992	松本誠司	4(○○○○)	0
	1993	松本誠司	4(○○○○)	0
	1994	松本誠司	4(●○●○○○)	2
	1995	白木建太郎	4(●○○○○)	1
	1996	野村正明	4(○○●●△○●○)	3
	1997	杉原陽一	4(○○○○)	0
	1998	松本誠司	4(○●○●○○)	2
	1999	松本誠司	4(○○○○)	0
	2000	白木建太郎	4(○○○○)	0
	2001	杉原陽一	4(○●●○●○○)	3
	2002	白木建太郎	4(●●○○○○●○)	3
※2	2003	松本昌士	3(○●○○)	1
	2004	◆ 白木建太郎	3(○●●○△○)	2
	2005	松本昌士	3(○○○)	0
	2006	岩田修一	3(●●○○○)	2
	2007	◆ 杉原陽一	3(○●○●○)	2
	2008	奥山満夫	3(○●○○)	1
	2009	◆ 杉原陽一	3(●○○○)	1
	2010	白木建太郎	3(○○●○)	1
	2011	◆ 松本誠司	3(○○○)	0
	2012	馬場毅	3(●○●○○)	2
	2013	杉原陽一	3(○●○○)	1
	2014	杉原陽一	3(○●●○△○)	2
	2015	城戸秀行	3(○○○)	0
	2016	杉原陽一	3(●○○○)	1
	2017	◆ 島和男.com	3(●○○●○○)	2
	2018	田中宏典	3(○●○○)	1
	2019	白木建太郎	3(○●○●○)	2
	2020	松本誠司	3(○●●○○)	2
	2021	城戸秀行	3(○○○)	0
	2022	島裕二	3(●○○○)	1
	2023	◆ 杉原陽一	3(○○○)	0
	2024	白木建太郎	3(○●○●○)	2
	2025	杉原陽一	3(○●○○)	1

◆はレギュラーシーズン優勝

※1 島裕二が前後期制覇をしているため、総合優勝は島裕二と記録。

特別企画の「千里G1クライマックス」として開催。

※2 2003年以降、千里シリーズの実施方式が変更。3勝先取で優勝。